FSG

安全最優先

青海工場配管破裂事故について

2023年6月14日に当社青海工場で発生した事故につき、亡くなられた協力会社1名の方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族に対しお悔やみ申し上げます。また、負傷され た2名の方々にお見舞い申し上げます。近隣住民の皆さまをはじめ、多くのお取引さま、関係者の皆さまにご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

最終報告書はこちらをご覧ください。 https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1193/20240111 denka omi finalreport.pdf

1 事故の概要

事故は、青海工場のクロロプレンモノマー製造設備における配管の更新工事中に発生しました。合成したクロロ プレンモノマーを貯蔵設備へ移送する配管を取り外すため、セーバーソー(電動のこぎり)で切断していたとこ ろ、切断部分から約3m先の配管が破裂しました。作業していた協力会社3名のうち、破裂箇所付近で配管を手 で支えていた作業員(A)が死亡し、切断作業に当たっていた作業員(B)と監督員(C)がそれぞれ負傷しました。





2 本質的な安全性の向上に向けて

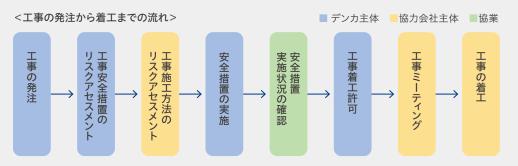
事故後、社外の有識者および専門家を中心に構成される「事故調査委員会」を設置し、徹底した事故原因の究 明および再発防止策の策定を行いました。その結果、配管内に付着したスケールの危険性に対する認識が低 かったこと、プラントの運転状態のわずかな変化に対する原因追究が不十分であったこと、工事関係者間の 連携が不十分であったことなどが要因として挙げられました。再発防止対策として、配管の湿潤状態保持を徹 底しました。また、スケールの生成を抑制する運転条件を検討し、実践しています。 さらに、協力会社を含めた全社的な安全管理の強化を図っています。

3 環境保安部門を中心とした安全文化の醸成

- ①今年度より本社および事業所の環境保安部門を強化し、化学物質の取扱い状況や、協力会社に対する安全 監査の取り組みを進めています。
- ②各事業所では安全パトロールの体制を整備し、専任者が現地現物によるパトロールを行うことにより、安 全面の課題を改善しています。
- ③事故の起きた日を「安全の日」とし、事故の記憶を風化させないよう努めています。

4 化学物質のリスクアセスメント、工事安全管理の強化

- ①スケールなど副牛物を中心に、改めて化学物質のリスクアセスメントを行い、対策を進めています。
- ②工事安全措置や工事施工方法のリスクアセスメントを行い、協力会社と残留リスクを共有しています。



 \bigcap 51 \bigcap



1 2024年度の活動

全社目標

職場の安全衛生と設備の保安防災は、全ての事業活動で最優先とする

- 1 労働災害度数率0.2以下に向けた取り組み推進
- 2 重大事故ゼロの達成

重点実施事項

- 1 労働災害度数率0.2以下に向けた取り組み
 - ・経験の浅い方、高年齢者、協力会社社員への安全対策
 - ・事業所パトロール体制の確立、本社からの監査に基づく継続的改善
 - ・ノンテクニカルスキル、心理的安全性の向上を軸とした教育訓練体系の見直し
- 2 重大事故ゼロ達成に向けた取り組み
 - ・高エネルギーハザード(爆発物、重量物、高所等)に重点を置いたリスクアセスメントの実施
 - 事故調査委員会提言の安全対策推進
- 3 あるべき姿の確立と実現に向けた取り組み
 - ・法令、安全などの必須な活動や有効性の高い活動に集中した着実な実行

2 | 経営計画 [Mission 2030] 目標達成のための戦略

2030年までに労働災害度数率0.2以下、重大事故ゼロを達成するため、下記を計画的に取り組みます。

①組織改編による安全管理の強化

安全の管理を専門に扱う部門を本社 並びに各事業所に設置し体制を強化 しています。



②労働災害度数率0.2以下への取り組み

近年発生した災害の約3/4は、経験の浅い方、 高年齢者、協力会社社員のいずれかに該当す る方が被災しているため、これらの安全対策 に注力します。



③重大事故ゼロ達成のための取り組み

高エネルギーハザードのリスクアセスメント 結果を基に、暫定的、恒久的対策を実施します。



3 | TOPICS

1. 労働災害度数率0.2以下に向けた取り組み

- ■経験の浅い作業者や外国籍作業者でも理解できる動画手順書を全社展開する取り組みを進めています。
- ■各種工事前のリスクアセスメントを徹底し、協力会社の皆さんに残留リスクを確実に伝えると共に、更なるコミュニケーションの向上を図りながら、一体となって災害防止に努めています。

2. 重大事故ゼロ達成のための取り組み

- ■「見守りカメラ」を活用し、作業者が手順書通りに作業しているか、不安全な作業はしていないか等、職制と作業者が共に画像を確認、問題があれば皆で改善点を検討、手順書の改訂を行い、誰でも安心、安全に働ける職場環境整備に努めています。
- ■保安設備、機器の早期に異常を確認すべく、高所の点検・監視についてはドローンの活用を進めています。

3. あるべき姿の確立と実現に向けた取り組み

- ■監査体系を整備し、グループ会社を含めたコンプライアンスの遵守に努めています。関係会社の安全活動については、デンカのマザー工場が 一体となり継続して支援しています。
- ■教育については新たな教材を導入し、グループ全体で安全知識、法令の理解向上に努めています。



動画手順書の一例



ドローンによる設備点検事例